

製品名: TFE3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18823**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	TFE3
別名	TFE3; BHLHE33; Transcription factor E3; Class E basic helix-loop-helix protein 33; bHLHe33
遺伝子 ID	7030.0
SwissProt ID	P19532
免疫原	抗血清はヒト TFE3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

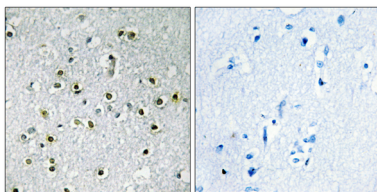
この遺伝子は、遺伝子プロモーター中の MUE3 型 E ボックス配列に結合する、塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックスドメイン含有転写因子をコードしています。コードされているタンパク質は、形質転換成長因子 β (TGF- β) シグナル伝達の下流にある遺伝子の発

現を促進します。この遺伝子は、腎細胞癌やその他の癌における染色体転座に関与し、融合タンパク質の産生につながる可能性があります。転座パートナーには、PRCC (乳頭状腎細胞癌)、NONO (非POUドメイン含有、オクタマー結合)、ASPSCR1 (胞巣状軟部肉腫染色体領域、候補遺伝子 1) などがあります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013年8月];疾患: TFE3に関連する染色体異常は、胞巣状軟部肉腫 (ASPS) で再発性である [MIM:606243]。転座 t(X;17) (p11;q25)と ASPSCR1 は、ASPSCR1-TFE3 融合タンパク質を形成する。;疾患: TFE3に関連する染色体異常は、胞巣状軟部肉腫 (ASPS) で再発性である。転座 t(X;17)(p11;q25)と ASPSCR1 は、ASPSCR1-TFE3 融合タンパク質を形成する。;疾患: TFE3に関連する染色体異常は、乳頭状腎細胞癌 (PRCC) の原因となる可能性がある [MIM:605074]。PRCCを伴う転座 t(X;1)(p11.2;q21.2); PSFを伴う転座 t(X;1)(p11.2;p34); NONOを TFE3に融合させる逆位 inv(X)(p11.2;q12)。機能: 免疫グロブリンエンハンサー MUE3モチーフに結合する陽性作用性転写因子。また、USF/MLTF部位にも非常によく結合する。TFE3がDNAに結合すると、DNA結合が誘導される。;類似性: Mit/TFEファミリーに属する。;類似性: 1つの塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックス (bHLH) ドメインを含む。;サブユニット: 効率的なDNA結合には、別のbHLHタンパク質との二量体形成が必要である。;組織特異性: 胎児および成人の組織に広く存在する。、

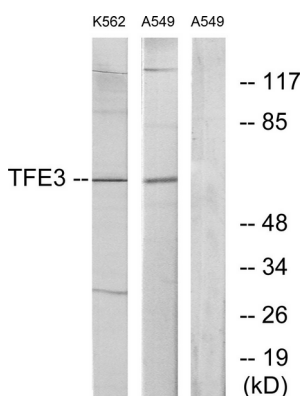
研究分野

免疫学、適応免疫、T細胞、非CDE、遺伝子遺伝学および核シグナル伝達、転写、ドメインファミリー、HLH/ロイシンジッパー、HLH、癌感受性、プロトオンコゲン

画像データ



TFE3抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



TFE3抗体を用いたK562細胞およびA549細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。